

埼玉県地域クラブ活動シンポジウム

令和6年2月17日（土）：さいたま文化センター

令和5年度

埼玉県新たな地域クラブ活動実証事業

吉見町立吉見中学校との連携事業

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ事務局

武蔵丘短期大学健康生活学科

健康マネジメント専攻 特任教授 太田あや子

2024/2/17

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

1

本日の内容

1. 令和5年度実証事業の概要

- ①対象（関係する地域、学校）
- ②NPO法人武蔵丘スポーツクラブ

2. 令和5年度実証事業の実際

- (1) 目的
- (2) 短期大学学生との合同練習 活動内容
- (3) 短期大学学生との合同練習 活動場所
- (4) 短期大学学生との合同練習 指導者
- (5) 短期大学学生との合同練習 経費負担
- (6) カヌー教室
- (7) スポーツ栄養教室

3. 実証の結果

生徒、顧問、短期大学学生、短期大学監督、保護者のアンケート

4. 課題

2024/2/17

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

2

1. 令和5年度実証事業の概要（対象）



吉見町 総人口：17,859人
•世帯数：7,924世帯
•イチゴが有名



2024/2/17

吉見町立吉見中学校
開校65周年
生徒数359人
運動部：野球、サッカー、卓球
ソフトテニス、バドミントン、
バスケットボール、陸上競技

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

武蔵丘短期大学創立33年
男女共学（定員320名）
健康生活学科
健康栄養専攻（栄養士）
健康スポーツ専攻
（中学校保健体育教員、
アスレティックトレーナー サッカ-C級コーチ）

3

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ

設立 平成23年5月9日

代表理事 福島 邦男(ふくしま くにお):武蔵丘短期大学健康生活学科健康マネジメント専攻教授

会員:吉見町民他 79名

活動内容: 武蔵丘短期大学の全面協力のもと、地域自治体と連携して、スポーツ活動や健康づくりを中心に活動している。短期大学の施設、人材を活用してクラブの教室を運営するとともに、地元自治体の委託事業を受託し、毎年10人以上の教員と述べ100名を超える学生ボランティアが活動に参加している。

- ①定期教室(健康ヨガ教室週3回、骨盤ストレッチ教室月2回、女子サッカーチームシニア週4回)
- ②子どもプール教室(7, 8月):9回
- ③吉見けやき保育所運動指導(月2回)、運動能力測定(春と冬2回)
- ④吉見町生涯スポーツ事業(親子アクティブ教室(5回)、かけっこ教室(2回)、鉄棒・跳び箱教室)
- ⑤吉見町健康づくり事業(介護予防運動、脳トレ、ノルディックウォーキング)

2024/2/17

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

4

2. 令和5年度実証事業の実際

(1) 目的：

- ①一町一中学校の事例となる
- ②総合型地域スポーツクラブの関わり方の事例となる
- ③短期大学、大学の関わり方の事例となる

以上の観点から実証事業を行う

(2) 活動内容：

①短大生との合同練習

バスケットボール部（女子12名）4回12月2日、23日、1月20日、2月17日

陸上競技部（男5女1計6名）3回 12月16日、1月13日（中止）、2月10日

サッカー部（男子13名）6回11月18日、12月2日、9日、1月13日（中止）、20日、2月3日、2月18日（日）

②部活別スポーツ栄養指導3回 サッカー部2月3日、陸上競技部2月10日

③野外活動：カヌー教室（男子1名）（1回：部員以外の参加可）11月19日（日）

2024/2/17

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

5

令和5年度実施事業一覧（武蔵丘スポーツクラブ）					
事業	1. 短期大学生との合同練習			2. カヌー教室	3. スポーツ栄養教室
	サッカー部	バスケットボール部	陸上競技部		
参加人数 (1, 2年生)	男子15名	女子12名	男子5名女子1名	男子1名	各部
回数	6	4	3	1	各部1回
顧問教員	兼職兼業1名	兼職兼業2名	兼職兼業1名	無し	参加
指導者	武蔵丘短期大学教員				
指導資格	A級コーチ C級コーチ	B級コーチ	コーチ3	キャンプディレクター	管理栄養士
指導補助	女子サッカー部 シエンシア 関東2部	女子バスケットボール部 関東3部	陸上競技部 関東学生連盟		スポーツ栄養ゼミ
活動場所	武蔵丘短期大学 サッカー場 (天然芝) フットサル場 (人工芝)	武蔵丘短期大学 体育館	武蔵丘短期大学 陸上競技場	カヌーリゾート たまよど	武蔵丘短期大学 調理学実習室
活動内容	パス、ドリブル、 ゲーム	パス、シュート ドリル	体づくり、全力 走る	火起こし、カヌーツ アー	お弁当を食べながらの スポーツ栄養講座
参加費	1回500円			1000円	無料
保険	スポーツ安全保険				

2024/2/17

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

6

(3) 活動場所 武蔵丘短期大学
体育館、グラウンド、フットサル場（人工芝）
サッカー場（天然芝）
カヌーリゾートたまよど

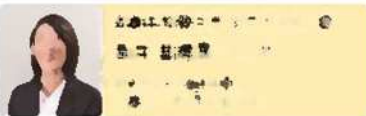


2024/2/17

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

7

(4) 指導者（短期大学教員：有資格者）と補助者（強化部活動）



(5) 経費負担

有料(500円)での参加 保護者や中学生の理解が得られるか?
初回無料、2回目からそのつど徴収(クラブ職員)

(1) 根拠: 指導者謝金

時給2,000円×2時間=4,000円の指導料を得るために
最少でも500円×8名の参加が必要になる。

月2回で1,000円、月4回で2,000円の保護者の負担感
今まで無償で指導してきた指導者の違和感

(2) 経済的困難家庭への補助のあり方

(6) カヌー教室 自然体験

実施日: 令和5年11月19日(日)

場所: たまよどカヌーリゾート

内容: 薪割、火起こし体験

カヌー操船技術練習とカヌーツアー



- ① 準備運動後にライフジャケット装着(正しくつけているかの確認方法)
- ② 陸上でカヌーに乗り、操船のポイント、落ちる姿勢の確認、落ちるのを防ぐ方法、落ちた時の助けをもらう方法を確認
- ③ 乗船、下船の方法の確認
- ④ 湖上に漕ぎ出て、前進、後退、停止、方向転換の練習
- ⑤ ツアーに出発(天候が良かったので上流へのぼり、下流への下りの両コース110分)
 - ・ 動植物を観察したり、滝を見に行ったりした

カヌー教室



指導者



(7) スポーツ栄養指導

会場：武蔵丘短期大学教室

練習後の昼食を短期大学でお弁当を
食べながら、スポーツ栄養について学ぶ

2月3日サッカー部、2月10日陸上競技部



2024/2/17

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ240217

補助学生：武蔵丘短期大学

長島ゼミ学生（スポーツ栄養学）

2年生 27名

補助教員

武蔵丘短期大学

健康生活学科

健康栄養専攻

講師（管理栄養士）

3. 実証の結果 生徒、顧問、参加学生アンケート

サッカー生徒・顧問

1. 感想
思った以上に強かった。個人個人の動き、連携、声基礎ができていた。
体の使い方など勉強になった。
レベルの違いを感じた。
★大学生の技術の高さに圧倒され刺激になった。
芝のグラウンドで練習できることがモチベーションアップにつながる。
2. 学びたい技術
①パス（正確な、クロスボール）
②トラップ
③ポジショニング
★パスコントロール

サッカー学生・監督

1. 感想
①良い点：スピードが速い、パスをつなげている
②改善点：試合中の仲間同士の言葉がけ
③中学生が対戦相手にプレッシャーもあったが、自分たちらしくプレーできた。
★チームとして戦えていない点が多々あった。
2. 中学生に教えたいこと（技術面、フィジカル面）
①チームで戦うこと、チームワーク
②足元の技術
③トラップの質
★サッカーの理解を深め、スキル、フィジカルの必要性を感じてほしい。
★仲間、用具、環境への感謝の気持ちやチームワークを伝えていきたい。

保護者アンケートから（サッカー）

1. 感想
楽しくできていた。
レベルが高いので勉強になる。
いろいろな経験ができる。
2. 学びたい技術
ボールコントロール
体幹とメンタル
守備
3. サッカー全般
取り組み姿勢（あきらめない、精神的な強さ）

4. 次回参加させたいか
参加させたい 7
理由：学べるところがたくさんある
芝のグラウンドなど環境がよい。
近い。
考えさせる指導が期待できる。
5. 500円の参加費
適当だと思う 6
あまりかけないで欲しい 1

4. 見えてきた課題

1. 中学校と大学のスケジュール調整
(年間計画との調整、前年度に次年度の計画を立てる必要性)
2. 有料(500円)での参加 保護者や中学生の理解が得られるか?
3. 事故対応 手順(フローチャート)、連絡方法(保護者、中学校、短期大学)、スポーツ安全保険
4. 大学側としての課題
リーグ戦などの試合や記録会のピーク時の対応
施設使用料、管理運営の担当
運動部活動指導者や運動部員の理解(今回は協力的)
要望の種目に対応できない場合の対処(大学連携体TJUPなど)
5. 地元や近隣市町との連携
行政(教育委員会)、スポーツ少年団、チーム、スポーツ協会

事故対応について

事例：2回目のサッカーのゲーム中に中学生同士の接触事故が発生

対応：①救急車の手配(大学の対応手順に従った)→たまたま会場にいた保護者が同乗

②短大への連絡(スポーツクラブ職員から)

③入院、手術が決まる→状況の把握に時間がかかり、教頭へ連絡できたのが、夜になった(スポーツクラブ職員から)

④翌月曜日に保護者と連絡を入れ、今後の入院、手術のスケジュールを確認、スポーツ安全保険について中学校関係者と保護者に文書と口頭で説明

⑤翌土曜日の練習日に短大サッカー部員がお見舞いの色紙と動画を作製して、顧問に渡す

⑥翌週、けがをした本人と保護者が短大女子サッカー部の練習場を訪問

⑦その後は通院を続けながら、短大での練習にも顔を出し、リハビリの運動などを行っている スポーツ安全保険の適用(完治後)

町の制度の利用：高額医療費と子ども医療費支給(自己負担分軽減措置)

要点：保護者とのトラブルを回避する努力、中学校との密接な連絡(逐次報告)

保険や医療制度に関する保護者への事前の説明